

今年もそろそろ、典礼暦の最後の主日である王であるキリストの祭日に向かっていま
 す。この頃の御言葉、特に、福音は終末論的な内容の御言葉、すなわち、再び来られる
 イエス・キリストとその再臨による神様の永遠の国に関する御言葉となっています。神様
 はイエス様を通して、人間がどうして救われることができるのかを示されました。それは
 神様の慈しみと愛によって可能なことで、イエス様はご自分の誕生から十字架の死に至
 るまでの御言葉と御業を通して、その神様の愛と慈しみを現わしてくださいました。ま
 た、復活を通しては、ご自身を救い主として信じる人々が救われることをはっきり証明
 されました。併せて、イエス様は再び来られ、神様の完全な勝利を収め、死んだ人であ
 れ、生きている人であれ、ご自身を信じるすべての人を神様の永遠の御国に迎え入れてく
 ださることを約束してくださいました。イエス様はそのメッセージを様々な例えを通し
 て教えてください、今日の福音もその一つであります。

今日の福音の例え話には、花婿を迎えに出かけた10人のおとめたちが登場します。
 その中の5人は愚かで、ともし火だけを用意しましたが、他の5人は賢くて、ともし火と
 共に余分の油も持っていました。彼女らは一緒に花婿を迎えに出かけましたが、花婿の
 来るのが遅れたので、皆眠気がさして眠ってしまいました。ところが、真夜中に花婿が来
 ていると声が聞こえて、おとめたちは起きてそれぞれのともし火を整えましたが、残
 念なことに、愚かなおとめたちのともし火は消えそうだったのです。それで、彼女らは
 賢いおとめたちに油を分けてくれることを願いましたが、断られ、仕方なく油を買い

に店へ向かわざるを得ませんでした。ところが、彼女らが店に行っている間に花婿が着き、賢いおとめたちは花婿と共に宴会に入りました。そして、その後、愚かなおとめたちは戻ってきて、主人に門を開いてくださいと願いましたが、主人は冷たくそれを断り、結局、彼女らは宴会に入れませんでした。最後に、イエス様はこの例え話の結論として、「だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。」と言われました。

このイエス様の例え話の中で、私はまず、其の10人のおとめたちが用意していたともし火と油について話したいと思います。実は、普通イスラエルの結婚式は、夜、花婿が花嫁の家に来てから始まるので、その花婿を迎えるため、花嫁の友達がともし火を持って花婿を待っているわけです。それで、そのともし火は結婚式に参加している人々、特に、花婿と花嫁にとっては希望と喜びを表す物となるのです。つまり、結婚式が行われるにあたり、ともし火がない、或いは、消しているというのはあり得ないということです。賢いおとめたちはそういったことが起こらないように別の壺に油を入れて準備していましたが、愚かなおとめたちは、ともし火だけしか持っていなかったのでしょうか。彼女らは、そのともし火が花嫁と花婿、また、その結婚式に与る人々のための物であることがわかっていなかったとも考えられます。

事実、イエス様の再臨とそれから始まる永遠の御国の宴は、ただ、私たち信仰のある人々だけのためのものではありません。神様はそれを、私たちは勿論、もっと多くの

ひとびと もよお ちが さま つぎ ことば
 人々のためにも 催されるに違いありません。それについてはイエス様の次の言葉がよく
 おし おも よ て ひかり
 教えてくれていると思います。つまり「あなたがたは世を照らす光である。」という
 ことば さま ことば きょう び とも かんが たし
 言葉です。イエス様のこの言葉と今日のおとめたちのともし火を共に考えたら、確かに、
 わたし しんこう ひとびと じぶん しんこう も おお ひとびと かみさま くに きぼう
 私たち信仰のある人々は自分の信仰を持って、もっと多くの人々に神様の国への希望と
 くに よろこ わ
 その国の喜びのしるしとならなければならないことがわかります。そのしるしとしての
 やくわり は わたし きぼう うしな かる じぶん
 役割をきちんと果たすべき私たちが、その希望を失ったり、軽んじたりしたら、自分も
 かみさま くに はい さら まわ ひとびと くに みちび
 神様の国に入れただけでなく、更に、周りの人々をその国に導くこともできなくなる
 はずです。

きぼう たい きょう だいにろうどく しと ま さま し ふっかつ
その希望に対して、今日の第2朗読で使徒パウロは、先ずイエス様が死んで復活された
 たし さら し ひとびと はじ い のこ ひとびと さま みちび
 ことを確かめ、更に、すでに死んだ人々を始め、生き残っている人々もイエス様に導か
 れることをはっきり語っています。つまり、わたし かの しんこう よ なか さまざま
 な宗教の教えやその宗教行為を行うことだけではなく、私たちが真に復活され、神
 さま くに はい きぼう ちと ふっかつ かみさま くに
 様の国に入れることへの希望に基づいているということです。ですから、復活や神様の国
 への希望を常に心 に留めておき、それを失わないように、かみさま いつく あい いの ちと
 めねばなりません。あわ さま かみさま いこう そ したが
 併せて、イエス様が神様の意向に沿って、いつもそれに従われた
 わたし きょう だいいちろうどく ちえ しょ つた
 ように、私たちもそうすべきです。それは今日の第1朗読の知恵の書がよく伝えてい
 ます。ちえ かなわち かみさま じぶん あらわ ちと ひと
 知恵、すなわち、神様は、ご自分をいつどこでも現されますが、それは求める人
 あい ひと み かみ じしん おも ひとびと つた
 や愛する人だけに見つかり、また、神ご自身がふさわしいと思われる人々に伝わるという

ことです。言い換えれば、神様はご自分を愛し、また、求める人々、併せて、ご自分が選
 んだ人々にご自身を現わされ、彼らがこの世の中から神ご自身に出会うことができるよう
 にして下さるといことです。その出会いによって、つまり、神様の導きに導かれる
 人には、希望のともし火が消えることも、油が足りないこともないでしょう。また、そ
 の人はいつも愛に満ちているはずで。なぜなら、イエス様が同じ希望を持ち、愛の生き
 方によってその希望を叶えることを示してくださったからです。そういうわけで、神様を
 信じ、その国を希望している私たちも、イエス様の愛の生き方に沿って生きるのです。
 また、その愛の分かち合いによって、私たちのともし火やそれを守るための油も用意で
 き、もっと多くの人々とその喜びと希望を、この世から分かち合うこともできるでしょ
 う。

新型コロナウイルスのさなかで、なんとか私たちはイエス様から頂いた大事な賜物で
 あるミサ聖祭を再開し、色々なことを工夫しながら、ウイルス以前の形を回復しようと
 しています。神様がいつか必ず以前のようにして下さると思います。その恵みの日を
 希望しながら、私たち一人一人も心を新たに、イエス様の愛に立ち返るべきだと思
 います。神様とイエス様の愛を表すミサには、愛だけがふさわしく、それ以外のことはど
 んなことも邪魔なことでしょう。ミサは真の花婿であるイエス様と信仰のある人々との婚
 宴でありますので、まず、私たちが愛に満ちていなければなりません。それこそが、目
 覚めている信仰人の真の様子に違いありません。このミサの中で、神様への私たちの信

こ^うと^きほ^うと^{あい}とが^{つよ}も^つと^{つよ}め^られる^よう、^ここ^ろを^あわ^せて^{いの}ち^を祈^らし^まし^よう。